



有機無農薬農家の必需品「EMリサイクル肥料」を作る 高知県本山町 障がい者支援施設「しゃくなげ荘」

高知県本山町にある障がい者支援施設のしゃくなげ荘（真鍋朋三施設長）は、現在利用者は約70名で50名の職員で運営している。

10数年前、この施設でのEM導入はU-ネット理事で執行委員の山下修氏が生ゴミ堆肥の事業化を勧めたことによる。そして農家から出る米糠や飲食店・スーパー・病院・一般家庭から出る生ゴミをEMで堆肥化できないかを現在の真鍋施設長と山下氏が試行錯誤して良質な「EMリサイクル肥料」を完成させた。

しゃくなげ荘が作る「EMリサイクル肥料」の特長は、魚のアラなどタンパク質が豊富に入っていることで、肥料として野菜の生育に必要な養分がバランスよく配合され、栄養豊富で美味しく育ちが良く病気に強いところだと言う。

この肥料を作るには、毎日1年365日休みなしにトラック3台で飲食店・スーパー・病院・100件余りの一般家庭から約500キロの生ごみを集めている。これにJAの精米所から提供される米糠とEM活性液を使ってEM蘇生利器で生ゴミ堆肥の原料を作る。更にこれを乾燥させてミキサーで粉碎して樽で3～6か月程度発酵させ、1、5、10キロに袋詰めされ、「EMリサイクル肥料」



が完成する。価格は10キロで500円と格安だ。全国的に有名な有機無農薬野菜の栽培家である地元の山下一穂氏はもちろん、全国に展開する山下氏のお弟子さんなど有機無農薬栽培農家はじめ、水稻・茶栽培農家の皆さんなど多くの方々を使用して、大好評の野菜などを消費者に提供している。因みに、取材に訪れた時には、島根県の有機無農薬栽培農家の方々から7トンもの注文があり、忙しそうに袋詰めをしていたが、何か笑顔で嬉しそうだった。

写真：EMリサイクル肥料を作るしゃくなげ荘利用者と指導員の皆さん

EM使用の先端モデル「すえひろ屋」 高知県土佐町

しゃくなげ荘がある本山町に隣接する土佐町と本山町で総合スーパーマーケットを展開する「すえひろ屋」は扱う商品から電気の制御等、多くの部門でEMが使われている。店内床やトイレの清掃にはEM活性液、販売する農作物の多くはEM栽培品、惣菜の揚げ物の揚げ機にもEMセラミックス製品を入れて油の酸化を抑えている。電気の配電盤には整流シールが貼られて電気使用量の低減も図っている。同社相談役の山下修氏は最近、EM整流炭を作るステンレス製の無煙炭化器を購入して、自身の田んぼの四隅にこの炭を入れての稲作を楽しみにしている。又近く、土佐湾の内海、浦の内湾の水質浄化にこの炭を使って取り組む。

（以上取材：理事 広報担当 大山正治）



山下修氏の田んぼに設置されたEM整流炭焼き器（無煙炭化器）